



畑恵子 編著
『ラテンアメリカの LGBT
—権利保障に関する 6 か国の比較研究』

明石書店 2024 年 292 ページ

ISBN 978-4750358604

本書は、「ラテンアメリカ地域でここ半世紀の間に、どのような連携と対立の中で LGBT の権利保障が進んできたのか、あるいは進まなかったのか、その過程と要因を探ること」を目的としている。また、「各国の特徴をより明確に把握するだけでなく、地域としての動向や特徴も明らかにすること」も狙いとしている。そのため、LGBT への影響力の強い「法律・制度」、「市民社会」、「政治」、「宗教」の 4 つを、対象国の共通項目として各章の前半に設定している。そして各章の後半において、執筆者が「その国らしい」と考えるテーマを取り上げ考察を行っている。

本書が取り上げる国は、ラテンアメリカの中でも先進的なメキシコ、ブラジル、アルゼンチン、2020 年に同性婚が認められ進展の見られたコスタリカ、後進的なニカラグア、ペルーの合計 6 カ国である。編著者が本テーマに関する共同研究を立ち上げ、招聘を受けた紹介者が参加したのが 2018 年である。コロナ禍の影響で大幅な計画変更を余儀なくされたが、約 6 年に及ぶ調査研究の成果として本書は 2024 年末に出版された。

序章「LGBT の権利保障をめぐる政治」(畑恵子)で始まる本書では、1 章「アルゼンチン：同性婚合法化のその先に—トランスジェンダーの権利保障」(渡部奈々)と 2 章「ブラジル：性的マイノリティの権利—その保障と世界最大パレードによる主張」(近田亮平)で、権利保障が進んでいる 2 カ国を取り上げる。3 章「ペルー—『拒否権プレーヤー』が阻止する LGBT の権利保障」(磯田沙織)と 4 章「ニカラグア—LGBT (性的マイノリティ) の権利なき可視化」(松久玲子)では、LGBT が厳しい状況に置かれている事例を考察する。5 章「メキシコ—連邦主義と司法による同性婚の拡大」(上村淳志)と 6 章「コスタリカ—民主主義体制における保守主義と LGBT の権利保障」(尾尻希和)では、連邦制や保守派という阻害要因を乗り越えた諸国を分析する。そして、終章「6 カ国比較からみるラテンアメリカの LGBT 権利保障の特徴」(畑)において、比較研究の総括や得られた知見に加え、日本への示唆について論じる。

日本ではラテンアメリカへの関心が薄く、残念ながら同地域のことはあまり知られていない。しかし、LGBT をはじめとする人権などに関して、ラテンアメリカには日本より先進的な国や分野が少なくない。ラテンアメリカを知り、日本が学ぶことを示唆してくれる貴重な書である。

近田亮平 (こんた・りょうへい/アジア経済研究所)



本記事は、クリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) ライセンスのもとで提供されています (<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed>)。オリジナルの出典と著者を表示することを条件として、自由に配布、複製、利用することができます。